

第43回 中央大学白門祭

初のダンスイベント

『DANCE×DANCE×DANCE』開く

学生グループ11組が参加。 タップダンスが人気No.1に

第43回中央大学白門祭は、多摩キャンパスで10月31日から11月3日まで、『祭ズは無敵大〜Sサイズなんて入りません〜』をテーマに行われた。

今年の中央企画は、11月2日に9号館(クレセントホール)で催された『DANCE×DANCE×DANCE』で初のダンスイベントだ。これまではミュージシャンを呼んでコンサートを行っていたが、今回は、学生ダンスグループ11組が出演する学生参加型イベント。11組のなかから、オー

ディエンスによる投票で人気No.1が選ばれるという趣向だ。

歌手でタレントのブラザートムさんをMCに迎え、ゲストダンスとして4人組ユニットの『EGUSPUSION』、今回がラストライブとなる2人組ユニットの『無名の心』、そして、ダンス界のカリスマ的存在といわれる坂見誠二さんがコメントターとして参加した。

1組目は、『Garnet Girls』(チアダンス・ソングリーダーディング)の女性グループが青い衣装に身を包んで

登場。シンデレラをモチーフに、12年生のチアが踊る。次は、グループを組んでまだ半年ほどだという『calve@dos』(ロック)のダンス。

続いて『4U+ Tsyoshi HARADA』(ハウス)、『Shandy Gaff』(ロック)、『the axis』(ハウス)が登場。「ハウスはステップを見ていくものだけど、それでは一般の人には何が正しいのかわかりづらい。もっと動きをミックスしていくと何を

やっているのかわかるようになる」と坂見さんがコメントした。

6組目は、『むぎぢよこ』(ロック)の男性3人のグループ。「チームを組んで1年くらいだ」「落ちていて見られる。コミカルとクールがちゃんと両方ある。バランス、形がきれい」と坂見さんの高評価を得た。

7組目は、『JD-DUO』



白門祭で行われたダンスイベント

(ストリートジャズ)の2人組で、黒い衣装に仮面を被って現れた。「ダンスでは、素の自分をみせない」というのがテーマだという。坂見さんは、「個人的なものばかりではなく、ストリートジャズのわかりやすいテクニクを見せるようにする」といい。ダンスがわかる人だけでなく、一般の人が見てもわかるものを」とコメントした。



チアダンス・ソングリーディングの演技

続けて『DARS × DANCE』（ロック）、『FREEDOM』（ビップホップ）、『MUSASHI』（ビップホップジャズ）が登場。学生ダンスグループのトリは、『FREIHEIT CREW』（タップ）で、タップダンスサークルから15人が着

物を羽織って登場。北野武監督の映画『座頭市』に出てくるシーンをイメージしてタップダンスを披露した。学生ダンスグループの後は、ゲストダンサーの『EGU-SPLSION』と『無名の心』によるパフォーマンス

が行われ、セントホールを埋めた観客をわかせた。

すべての演技が終わったあとで、坂見さんが、「ダンスをやる人は、ダンスの動きから入る人が多いけど、音楽から入って、この音楽だからこう踊りたいというふうにやってほしい。あと、エンターテインメントなので、

ダンスがわからない人にもわかるようにしてください」との総評が行われ、オーディエンスによる投票に入った。

その結果、タップダンスの『FREIHEIT CREW』が人気No.1ダ

ンスグループに選ばれ、トロフィーが贈呈された。最後は全チームによる賑やかなダンスパフォーマンスで締めくくられた。

（学生記者 武田朋実 法学部4年）

第43回 理工白門祭

後楽園でも

ダンスパフォーマンスに人気

サークル「Addicted2」の

演技に立ち見も

第43回理工白門祭は、後楽園キャンパスで11月1日～3日の3日間、開催された。取材当日の1日は、午前中から天候にも恵まれ、大勢の学生や一般客などでキャンパスは終日賑わった。

5号館、6号館では学生企画と

して主にサークルの企画が行われ、このなかで仮設ステージで披露されたストリートダンスサークル「Addicted2」の演技に人気が集まっていた。

このサークルは、現在メンバー70人程で、OB・OGの数は100人

を超えるインカレサークルだ。男女比はほぼ半々で週1回ほどキャンパス内で場所を借りて練習をしているという。

教室の中につくられた会場では、窓からの陽光は完全に遮られ、照明は仮設ステージのみに当たっている。客席とすぐ間近のステージでは各グループが、それぞれ15分程、Lock, BREAK, Hip

Hop, House といった様々な種類のダンスパフォーマンスを次々に披露。ダンサーの顔に滴る汗や、熱気を肌で感じる。満員で立ち見もいる



理工白門祭のダンスパフォーマンス

客席は、大いに盛り上がっていた。

このAddictedを率いるのは、中央大学理工学部精密機械工学科2年生の鎌田涼也さんで、「大学入学からダンスを始めて約1年半、今はメンバーやOB・OGとの強い繋がり

を感じています」という。

「ダンスは、良い音楽をただ聴くだけでなく、感じた思いを体全体で表現し、相手に伝えることができる。ダンスを踊っていると熱い感情を感じる。その感情をお客さんと同じひとつの空間で共有できることが幸せなんです」と鎌田さんは語ってくれた。

一方、後楽園キャンパス中央にあるテニスコートには特設ステージが設けられ、ストリートパフォーマンスやお笑い芸人のライブなどが行われた。また、各学科の研究棟では学生による研究室公開が行われ、訪れた人に対し、実際に設備を動かして実験を行って、日々の研究内容の紹介していた。

今年も研究室公開コンテストを開催 最優秀賞は超音速・安定計算研究室

理工白門祭では最終日の11月3日、昨年に引き続き研究室公開コンテストが行われた。これは来場者が、公開されている研究室について評価するコンテストで、「印象度」、「充実度」、「熱心度」の3つの観点から行われた。

その結果、最優秀賞の理工学部長賞には、経営システム工学科Ⅱ「超音速・安定計算研究室」が輝いた。優秀賞は、物理学科Ⅱ「坪井研究室」、

都市環境学科Ⅱ「福岡研究室2009」、精密機械工学科Ⅱ「音響システム研究室」・「ヒューマン・システム研究室」、応用化学科Ⅱ「環境化学研究室」・「固体化学研究室」、経営システム工学科Ⅱ「目指せ、研究者!!女子学生!!研究室」、情報工学科Ⅱ「アルゴリズム理論基礎研究室」の8研究室が選ばれた。
(学生記者 小室靖明Ⅱ理工学部4年)